

2 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

1 調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象とする児童生徒

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象。

- (1) 小学校調査
小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年
- (2) 中学校調査
中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年
ただし、特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の状態等を考慮して、参加の是非を適切に判断。

3 調査事項

- (1) 児童生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（測定方法等は新体力テストと同様）
[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）
（※中学校は、持久走か20mシャトルランのどちらかを選択）
 - イ 質問紙調査
・運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査
- (2) 学校に対する質問紙調査
・子供の体力・運動能力等の向上に係る取組等に関する質問紙調査
- (3) 教育委員会に対する質問紙調査
・子供の体力・運動能力等の向上に係る施策等に関する質問紙調査

4 調査実施日

- (1) 実技調査実施期間：平成28年4月から7月末までの期間
- (2) 児童生徒質問紙調査：調査票到着から7月末までの期間
- (3) 学校質問紙調査：調査票到着から6月30日までの期間
- (4) 教育委員会質問紙調査実施期間：調査票到着から6月30日までの期間

5 調査校数（国立・公立、私立）

30, 865校（小学校20, 272校、中学校10, 593校）

6 大分県児童生徒の状況

(1) 調査校数・児童生徒数

- ① 小学校（267校、男子4,816名、女子4,667名：特別支援学校含む）
- ② 中学校（130校、男子4,634名、女子4,524名：特別支援学校含む）

(2) 体力合計点による全国順位【資料1】

- | | | |
|--|---|------|
| <ol style="list-style-type: none">① 小学校5年男子 7位（九州1位）（参考H20：32位）② 小学校5年女子 7位（九州1位）（参考H20：40位）③ 中学校2年男子 8位（九州1位）（参考H20：39位）④ 中学校2年女子 15位（九州2位）（参考H20：43位） | } | 過去最高 |
|--|---|------|

(3) 全国平均以上の項目数（8項目中）【資料2】 【資料3】 【資料4】

- | | | |
|---|---|------|
| <ol style="list-style-type: none">① 小学校5年男子 8（H27：7）② 小学校5年女子 8（H27：7）③ 中学校2年男子 7（H27：6）④ 中学校2年女子 6（H27：4） | } | 過去最高 |
|---|---|------|

(4) 各調査項目の結果【資料2】 【資料3】 【資料4】

- ① 小5男女は、全項目で全国平均を上回り、体力合計点も過去最高値（H20の調査開始以降、以下同じ）となった。
- ② 小学校男子は8項目中5項目、小学校女子は8項目中7項目で過去最高値となった。
 - ・小5男子：上体起こし、長座体前屈、反復横とび、シャトルラン、50m走
 - ・小5女子：上体起こし、長座体前屈、反復横とび、シャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
- ③ 小5女子は、「50m走」が初めて全国平均を上回った。
- ④ 中2男女は、体力合計点が過去最高値となった。
- ⑤ 中学校男子は9項目中6項目、中学校女子は9項目中8項目で過去最高値となった。
 - ・中2男子：長座体前屈、反復横とび（H27と同得点）、シャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
 - ・中2女子：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、シャトルラン、持久走、50m走、立ち幅とび
- ⑥ 中2男子は、「50m走」が初めて全国平均を上回った。
- ⑦ 中2女子は、「長座体前屈」「50m走」が初めて全国平均を上回った。

(5) 体力総合評価【資料5】

- ① 総合評価がC以上の児童生徒の割合は、小・中学生男女全て全国平均を上回り、過去最高値となった。

(6) 児童生徒質問紙による調査結果【資料7】

- ① 小・中学生男女ともに1週間当たりの運動実施時間は全国平均を上回った。
- ② 1週間当たりの総運動時間60分未満の割合は、小・中学生男女ともに全国平均を下回った。
 - (1) 小5男子 6.2%（全国 6.6%）
 - (2) 小5女子 11.4%（全国 11.6%）
 - (3) 中2男子 4.3%（全国 6.4%）
 - (4) 中2女子 17.1%（全国 20.6%）
- ③ 運動やスポーツへの愛好度は、「好き」「やや好き」と回答した割合が、中学生男女ともに全国平均を上回った。（小5女子は同率）

(7) 学校質問紙による調査結果【資料8】

- ① 小学校においては、「学校全体で体力・運動能力向上の目標設定」「運動が苦手な子向けの体力・運動能力向上の取組」「調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善」「体力・運動能力向上に関する取組、体育の授業における指導方法の工夫・改善についての教職員の関わり方」「家庭へ体力向上に係る説明・呼びかけ」「担当教員以外との調査結果の情報共有」の項目で全国平均を10ポイント以上上回った。
- ② 中学校においては、「学校全体で体力・運動能力向上の目標設定」「調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善」「保健体育の授業で体力・運動能力向上の取組」「体力・運動能力向上に関する取組、体育の授業における指導方法の工夫・改善についての教職員の関わり方」「家庭へ体力向上に係る説明・呼びかけ」「担当教員以外との調査結果の情報共有」の項目で全国平均を10ポイント以上上回った。

7 考察

(1) 成果とその分析

- ① 「体力合計点による全国順位」や「各調査項目の結果」などから、本県児童生徒の体力・運動能力は確実に向上していることが明らかとなった。
- ② 小学校については、男女ともに九州1位を達成した。
- ③ 中学校については、中2男子は九州1位を達成、中2女子は全国15位（H27：23位）と大幅な向上がみられた。
- ④ 総合評価がD、又はEの児童生徒の割合は減少しており、全体的な体力の底上げが図られていると判断できる。
- ⑤ 本県では、各学校が体力向上のための目標を設定し、組織的・計画的な取組を行っており、児童生徒の運動実施頻度が高まってきた。
児童生徒の1週間当たりの運動実施時間（体育の授業を除く）は、全国平均を小5男子で53分、小5女子で約30分、中2男子で約20分、中2女子で約12分上回っており、このことが調査結果に反映されたものと考えられる。
 - (1) 小5男子 655.9分（H27：642.2分、全国比+44.7分）
 - (2) 小5女子 400.1分（H27：367.1分、全国比+15.5分）
 - (3) 中2男子 984.6分（H27：947.0分、全国比+33.0分）
 - (4) 中2女子 696.9分（H27：650.9分、全国比-3.1分）
- ⑥ これまで課題であった50m走が小・中学生男女全て全国平均を上回った。すばやさや力強さなどが主な体力要素であり、その向上に向けた取組の工夫がなされてきたことや運動実施時間の増加などが要因と考えられる。

(2) 課題及び今後に向けて

- ① 調査項目については、中学校の上体起こし、中学校女子のシャトルランが課題である。経年的な変化をみるとゆるやかな向上傾向がみられるものの、全国平均には届いていない。「力強さ・粘り強さ（動きを持続させる能力）」を育む取り組みを引き続き推進していきたい。
- ② 「1週間の総運動時間60分未満の割合」は、昨年度に比べ、それぞれ割合が減少したものの、小・中ともに女子の割合が高いため、今後さらに減少させていきたい。
- ③ 「わかる」「できる」「たのしい」授業や活動を推進し、「運動やスポーツへの愛好度」を更に高めていきたい。
- ④ 今後の目標としては、全国順位や全国平均との比較に終わらず、運動の日常化と生活習慣改善の取組とを関連させた取り組みを推進することで、体力がピークと言われる昭和60年頃の水準を目指していきたい。